

浮いて助けを待つ

岡崎市六ツ美西部小 6年生が着衣泳を実践

岡崎市六ツ美西部小学校で七日、六年生を対象にした着衣泳の授業が行われた。服を着

たままプールに入っただけで確認し、川や海で溺れた際にどう行動したらいいかを考え、自身の命を守るすべを学ぶために実施された。

この日は、岡崎竜城スイミングクラブ(同市日名南町、大森久美社長)のインストラクター二人が外部講師と

して指導に当たり、男女別々の時間帯で行った。児童は服や靴を着用したまま泳いだり、プール内でジャンプしたりして「水分を含んだ体の重さ」を実感。インストラクターは「川や海でもし溺れたら、泳がず動かないこと。落ちて着いて上を向き、浮いて助けを待つことが大事」と呼び掛けた。

「浮き輪」になることも学んだ。本田琥珀君(二)は「楽しく学べた。いざという時は、浮いて待ち、助けを呼ぶことを心掛けたい」と感想を述べた。



着衣泳を体験する児童ら
岡崎市六ツ美西部小学校で